

Jリーグクラブの下部組織所属選手が、 ホームタウンに抱く愛着に関する一考察

The consideration about hometown attachment: Focus on inferior branch player of the J-League club

1K10C029-1 池西希

主査 作野誠一 先生

副査 松井泰二 先生

【目的】

ユース年代(2種;高校生年代、3種;中学生年代)をJリーグの下部組織チームで過ごした者はそのクラブのホームタウンに愛着を持つのか、また愛着はどのような要因からもたらされるのかを調査し、実際にプレーする選手達の特定地域への地域愛着を明らかにする。また、この研究を通じて、日本サッカーの今後の強化のために不可欠である、Jリーグクラブの下部組織の選手の質の向上という面においての示唆を与えられることを目指す。

【方法】

アンケート調査を行い、対象はJリーグチームである浦和レッドダイヤモンズの下部組織チーム浦和レッズユースの選手に選定をした。浦和レッズユースはプロのトップチームで活躍できる選手および世界に通用する選手を輩出することを目標とし、日本国内において強豪と言われる下部組織チームである。選定した者は下部組織に所属する現役選手、またかつて所属していたOB選手を対象とした。

アンケート項目については、基本的属性を問う7項目と「うらわ」に対する地域愛着11項目、サッカーと「うらわ」に対する地域愛着の関係性についての5項目の計16項目、愛着を感じ始めた年齢を問う1項目である。

【結果】

「うらわ」に対する愛着を浦和レッズの下部組織所属選手は強く持っていることが明らかにされた。「うらわ」への愛着を問う16項目の合計変数は高い数値であり、7段階で愛着の評価を問い全体の平均は6.625であり、出身地やクラブ在籍年数、サッカーキャリアなどに関わらず、下部組織に所属した選手の「うらわ」への愛着はとても強いということを明らかにした。「うらわ」に対する愛着をどのような要因で持つかということに関しては、出身地や居住年数、練習場までの時間、クラブ在籍年数、サッカーキ

ャリアといった項目と愛着項目によって分析を行ったが、自宅から練習場までの時間のみ、「うらわ」に対する愛着への有意な結果が生まれ、愛着をもたらす一つの要因が「時間」であるということが示唆されたと考えられる。

【考察】

「うらわ」に対する愛着が出身地や居住年数、練習場までの時間といった項目に関わらず、非常に強い結果であることが明らかになったことから、Jリーグクラブ随一の人気を誇り、埼玉県全域だけではなく、近隣の県においても強い人気を示している、浦和レッズというクラブの影響力の大きさが関係しているのではないかと推測される。それは、埼玉県全域におけるハートフルクラブといったスクール活動などといった取り組みから下部組織に所属する以前で、浦和レッズに触れる機会を持っており、「うらわ」への距離があったとしても浦和レッズを身近に感じられる習慣があり、そのことが「うらわ」への愛着を数多くの選手が強く持つ要因であると推測される。

クラブ在籍年数と地域愛着の関係性についての結果としても「うらわ」への愛着項目の合計点数は高いもので「うらわ」への愛着を強く示すものであった。そこから浦和レッズの下部組織チームの環境面が大きく影響しているのではないかと考えられる。これらの環境面におけるポジティブなクラブの取り組みはクラブ在籍年数に差があったとしても、過去の研究でもあるように、そのクラブでの活動の質や生活体験が愛着をもたらす要因となり、「うらわ」への愛着に大きな影響を与えていることが推測される。

サッカーキャリアと地域愛着の関係性についての結果としても、キャリアによって「うらわ」に対する愛着の差は生まれておらず、愛着をもたらす要因はそれ以外の要因によって形成されることが推測される。また、本結果では「うらわ」への愛着についてどの項目においてもポジティブな数値を示したことから、サッカーキャリアにおける「うらわ」への愛着の差が表れにくいものになったと考えられる。